

第1回新県立中央図書館整備の検討に関する有識者会議

1 概要

(1) 日時 平成30年10月23日（火）午後2時から4時まで

(2) 出席者

| 氏名 | 役職 |
|--------|----------------------------|
| ◎糸賀 雅児 | 慶應義塾大学名誉教授 |
| 市川 智章 | 静岡市立中央図書館長・静岡県図書館協会副会長 |
| 小幡 壯 | 静岡県立中央図書館協議会委員長・静岡県立大学図書館長 |
| 草谷 桂子 | トモエ文庫主宰・静岡図書館友の会 |
| 林 左和子 | 静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科教授 |

2 主な意見

| 項目 | 意見 |
|-----------------|--|
| 第2章 サービス | <ul style="list-style-type: none">・ 県域全体のサービスを充実できるよう、<u>HP及びSNSの充実</u>を図る。・ <u>県と市のサービスの違いは、スケール・規模・コンテンツ</u>。例えば、外国人サービスは市町単独では困難なので県がやるべき。・ <u>課題解決型サービス</u>は県が行うサービスの一つ。積極的に取り組むべき。 |
| 第3章 市町立図書館支援 | <ul style="list-style-type: none">・ <u>市町支援</u>は県の重要な機能の一つ。重点的に基本計画に入れたほうが良い。・ <u>静岡市民ばかりが潤うサービスにならない</u>よう配慮が必要。・ 県立と市立のサービスの<u>交通整理ができる司書</u>が県立に必要。 |
| 第5章 読書推進 | <ul style="list-style-type: none">・ 読書推進という切り口では、<u>図書館が中心となっていくことは良いが、学校図書館支援には、読書指導という観点</u>から教育委員会からの支援のほうが良い場合があるので、今後検討が必要。 |
| 第6章 文化力の拠点 | <ul style="list-style-type: none">・ 本体のどっしりした図書館がある中の、<u>「新しい知的空間」のコンセプトは非常に良い</u>と思う。・ 「新しい文化」を図書館で育むためには、<u>逆説的に県立図書館らしくない図書館</u>を造る事になるかもしれない。・ それぞれの<u>軸足は別々になるが、利用者にとっては一体の施設</u>になる方が良い。（イベントに行ったら図書館にも利用していたなど）・ <u>「新しい知的空間」民間から提案</u>してもらうほうが良い。 |
| 第7章 施設整備 | <ul style="list-style-type: none">・ <u>岩手県は指定管理</u>にしたため、東日本大震災の際他県よりも<u>図書館復興が遅れた</u>ようだ。・ <u>公開書庫</u>の理念は良いが、利用者がすべての書庫出納を行うのは困難。また、書庫内の配架等整理に係る手間も配慮する必要がある。 |